

令和4年度(2022年度)事業報告書

1. 概況

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、事業運営に大きな制限がかかった。特に両病院においてはその影響が大きく、入院患者数の減少や職員の徹底した感染対策による負担増加で多くの離職者が発生した。結果として、医業収益に関しては患者数が減ったにもかかわらず、新型コロナウイルス陽性者による診療報酬上の加算の影響で前年度より若干改善し、費用に関しては人件費が大幅な減少となり、また、本年度も国・県からの財政的支援により収益改善が図られ、最終損益は若干ながら黒字決算となった。

2. 令和4年度事業計画に基づく事業活動の状況

当期における事業活動の状況は、概ね次のとおりである。

(1) 精神衛生の研究

①患者の治療・社会復帰に関する調査研究

医師をはじめ、看護師・精神保健福祉士・臨床心理士が日常業務の中で、継続的に調査研究を実施している。

②精神衛生の統計ならびに一般財団法人新居浜精神衛生研究所紀要の発行

当法人既発行の紀要や、外部の紀要等の事例を元に、引き続き発行に向けて準備を続けている。

③入院患者の考察に基づく院内看護研究発表会の開催

院内の研究発表会や勉強会等による研修・研究を通して、医療に関する研究考察・質的向上に努めた。また、院外の学会や研修会等に関しては、新型コロナウイルス感染症対策を考慮しつつ、可能な限り参加するよう努めた。

財団新居浜病院では、9件のテーマについて看護部院内研究発表会を開催し、豊岡台病院では、5回の勉強会を実施した。また、院内外の研修会等への参加は、財団新居浜病院では13回、豊岡台病院では7回の実績であった。

看護職員以外では、医師をはじめ、薬剤師等のコメディカル、その他の職員も院内外の研修会等に積極的に参加した。(財団新居浜病院 46回、豊岡台病院 32回)

(2) 精神病の予防に関する普及及び宣伝

医師、看護師をはじめとして、薬剤師・精神保健福祉士・臨床心理士・作業療法士・理学療法士・管理栄養士・臨床検査技師等は、院外の研究会・研修会・学会・勉強会・交流会等へ積極的に参加し、最新の医学研究の情報収集に努めるとともに、外部の関係機関や関係者と連携して、講演会・座談会・健康相談会等の開催及び講師の派遣を行い、患者家族及び一般の方々に、精神疾患に関する情報の提供や情報交換を行い、地域における精神疾患の予防に関する普及、宣伝に努めた。

(3) 附属病院の経営

財団新居浜病院及び豊岡台病院の経営を行い、地域社会の要請する医療の提供に努めている。諸部門の強化充実を図るため、医療従事者の確保に努めているが、職員の採用には両院ともに引き続き苦慮している。

① 財団新居浜病院

令和4年度は、前年度の新型コロナウイルス感染症の第4波による院内クラスターが発生した影響により、患者数の増加は見込めなかった。それ以上に、令和4年8月下旬から同年10月上旬にかけて、同感染症の第7波による院内クラスター（5号館・1号館3階病棟）が発生した。その後立て続けに、同年12月中旬から令和5年3月中旬にかけて同感染症の第8波による院内クラスター（1号館3、4階病棟（1-4階病棟は2度目）・7号館3、4階病棟）が発生した。

以上のように、年度内に8病棟中5病棟（2つの病棟においては2度のクラスター）院内クラスター（感染集団）が発生した結果、罹患者総数は全体で163名を数え、併せて職員23名が罹患した。この事から、入院患者数は今までにない減少幅であった。具体的には、年度当初の1日平均入院患者数326名から年度末には313名となり、当初予算数352名に対して39名の減少で、予算数は達成できなかった。

外来患者については、年度当初の1日平均外来患者数74名から年度末には78名となり微増しているものの、当初予算数86名に対して8名の減少で、予算数は達成できなかった。特に、「認知症デイケア」の利用者数が激変した。

同感染症による職員の罹患者も増え、特に看護職員の自宅待機者が増加した。このことにより、病棟運営にも支障が出て、スタッフ確保に苦慮した。そのため、前述したように「認知症デイケア」の利用者数が激変したこともあり、年度の途中で病棟スタッフ確保のため、同デイケアの開所日を週7日から5日に減らし、そのスタッフを病棟勤務へ配置換え等を実施し、病棟運営に支障が出ないように対策を講じた。

併せて、以下の内容で行政からの財政的支援を受け対当初予算の収入減の補填に努めた。その結果、対当初予算と比較し収支差額は大幅にプラスとなった。

【行政機関からの財政的支援（補助金申請）】（見込みを含む）

医療・福祉応援金	8,910 千円
新型コロナウイルス感染症患者入院受入協力金	35,100 千円
新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金（病床確保料）	37,346 千円
愛媛県医療従事者応援手当補助金	3,020 千円
新型コロナウイルス感染症医療従事者宿泊費助成補助金	3,276 千円
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止継続支援補助金	197 千円
合計	87,849 千円

【入院】

（当初予算）	入院 1 日平均患者数	352 人	医業収入	1,776,955 千円
（実績）	〃	324 人	〃	1,751,623 千円
（前年度実績）	〃	331 人	〃	1,690,667 千円

【外来（訪問等含む）】

（当初予算）	外来 1 日平均患者数	86 人	医業収入	247,510 千円
（実績）	〃	77 人	〃	225,215 千円
（前年度実績）	〃	74 人	〃	227,691 千円

医業収入全体で、前年度実績と比べ年間 58,480 千円の増収、対当初予算と比べ年間 47,627 千円の減収となる。

② 豊岡台病院

今年度も新型コロナウイルスに翻弄される 1 年となったが、年度末にかけて徐々に落ち着きを取り戻すことができた。

豊岡台病院では、3 階内科療養病棟において 8 月～9 月に 1 回目、11 月～12 月にかけて 2 回のクラスターが発生し、医師や看護職員等が対応に追われたが、精神科病棟に波及することなく、短期間で終息することができた。なお、当該クラスター発生に係る空床補償他当年度分補助金として 11,962 千円を計上し、未確定分 17,752 千円については次年度計上となる見込みである。

昨今では、人口減少による労働力不足が医療のみならず地域社会全般の深刻な問題だが、豊岡台病院においても、数年前から看護職員等の確保に苦慮しており、退職者の補充が滞っている状態が続いている。内科療養病棟でクラスターが発生する 1 ヶ月前の 10 月から、看護配置数・看護補助配置数・月平均夜勤時間数等の基準を満たすことができない月が多くなり、病棟運営が困難な状況が継続している。

このような中、入院患者数は期首から 1 名減少にとどまったが、年間平均では 3.4 名減となり、入院収益は 2,470 万円減少した。外来収益も 1,949 万円減少し、うち介護部門は 304 万円減となった。医業収益が減少したことに伴い、材料費が 1,835 万円減少し、職員の減少により人件費は 2,202 万円減少、経費も 339 万円減少し、損益は昨年度に対して 486 万円改善している。なお、新規取得固定資産として 4・5 階酸素配管吸引設備工事 418 万円や変圧器更新工事 407 万円他、合計 1,411 万円を計上し、対前年比で 500 万円程減少した。

(4) 看護専門学校の経営

平成 25 年度より 3 年課程に変更し、第 8 期生の卒業生を社会に送り出した。

看護師国家試験は、21 名中 20 名の合格（合格率 95.2%）であり、前年度の本校の合格率から約 12 ポイント増、全国の合格率 90.8%と比較しても約 5 ポイント上回った。前年度までは全国平均に遠く及ばなかったが、3 年課程になってやっと全国レベルに追いついたという状況である。

学生確保については、令和 4 年度は新生 18 名、令和 5 年度は 17 名と、令和 3 年度から新生が 20 名を切った状態が続いている。学校の知名度アップの為に、大型ショッピングセンターに電子広告を開始したり、積極的に市の新型コロナワクチン事業に参加やメディアの取材を受けたりしたが、現時点ではあまり効果が得られていない。更に、令和 4 年度は途中退学者、休学者が合計 4 名出てしまった。国家試験の合格率が全国平均以上というのは、重要なプラス要素である為、令和 5 年度の国家試験も今年度につき全国レベルの合格率を目指すとともに、受験希望者の確保、在校生のきめ細やかな支援、本校らしい親しみやすさ・誠実さを前面に出し、学校の良さを理解してもらえるように工夫し、学生確保につなげたい。

(5) 精神障害者の診療・治療

財団新居浜病院の入院診療の実績並びに診断の内容は、令和 4 年度末で 313 名の患者が在院しており、主な疾病別の患者数と平均在院日数は次のとおりである。

病名	人数 (人)	平均在院日数 (日)
統合失調症	191	4,139
躁うつ病	17	1,145
認知症	71	735
器質性精神障害	17	1,341
アルコール中毒	4	303
覚醒剤中毒	3	2,778
知的障害	6	2,372
発達障害	1	451
精神神経症	3	1,788

全体の疾病のうち、統合失調症が 61.0%を占めている。

豊岡台病院では、延べ入院患者数は 41,659 人/年（対前年比△1,253 人/年）、うち精神科病棟は 31,233 人/年（対前年比△692 人/年）、内科療養病棟では、10,426 人/年（対前年比△561 人/年）となり、平均入院患者数は 114.1 人/日（対前年比△3.4 人/日）と減少した。

外来の延患者数は 18,159 人/年（対前年比△1,865 人/年）で、うち精神科は、8,866 人/年（対

前年比△619人/年)、整形外科・リハビリテーション科では6,166人/年(対前年比△297人/年)、眼科では2,237人/年(対前年比△1人/年)、内科では4,808人/年(対前年比△526人/年)、年間の1日平均患者数は61.3人/日(対前年比△6.6人/日)となり、入院外来共に患者数が減少した。

(6) 精神障害者の社会復帰の促進

財団新居浜病院、豊岡台病院ともに、医療社会事業科の精神保健福祉士が地域活動の中心的役割を果たしており、看護部ほかの協力を得て、院内外の患者及び家族との関係を密にした活動を行っている。

主な活動としては、懇談会・勉強会等の実施・デイケア新聞の発行・納涼夏祭り・クリスマス会等のレクレーション活動の実施である。また、関係機関等との連絡会・交流会・学習会に積極的に参加し、コミュニケーションを深めることにより、精神障害者の医療、社会復帰等の支援に努めている。

(7) 居宅介護支援事業

愛媛県の介護保険の指定を受けて、要介護状態または要支援状態にある高齢者及びその介護者の居宅に関わる総合的な相談に応じ、サービスが適切に利用できるように適正な居宅介護支援サービスを提供している。

主な業務内容は次のとおりである。

- ①要介護・要支援認定等の申請について、申請の代行業務を行う。
- ②介護保険の説明、介護保険サービス利用についての相談等に応じる。
- ③利用者・家族の意向を聞いて介護サービス計画書の作成、担当者会議の開催、介護サービス事業所との連携を図り、サービスが適切に行えているか利用状況の把握を行う。
- ④毎月利用者の自宅を訪問し、利用者・その家族と会って毎月モニタリングを行う。
- ⑤必要に応じて介護サービス計画書の変更、必要なサービスの調整を行う。
- ⑥愛媛県、四国中央市で開催される研修会、勉強会、講演会等に参加し、介護支援専門員としての資質向上に努める。

居宅介護支援事業については、豊岡台病院において行ってきたが、スタッフの確保が困難となり、令和3年12月より休止せざるを得ない状況にある。

(8) その他必要な事業

国立学校法人愛媛大学への寄付について

今年度も、寄付の目的「脳と心の医学」の研究のために、令和4年5月10日に100万円の寄付を実行した。

3. 当法人の職員の状況は次のとおりである。(令和5年3月31日現在)

(人)

	財団新居浜	豊岡台	学校	計
医師	5	4		9
非常勤医師	4	7		11
看護師	96	32		128
教員			10	10
准看護師	30	14		44
看護補助者	23	16		39
作業療法士	6	4		10
精神保健福祉士	6	3		9
薬剤師	4	2		6
管理栄養士、栄養士	6	3		9
臨床心理士、心理士	3	1		4
臨床検査技師	3	2		5
診療放射線技師	1	1		2
理学療法士		2		2
調理作業員	24	6		30
事務職員	23	12	2	37
その他		2		2
計	234	111	12	357

(法人事務局は、財団新居浜病院に含む)

(前年より22人減)

以上